

7 警察犬

Q 3 6 警察犬の仕事は何ですか。

A 犬は人間と比べて数千倍もの臭いを感じ取る能力（嗅覚といいます。）
 を持っています。警察ではこの能力を使い、警察犬として育て、現場に
 残されている臭いから犯人を捜し出す仕事など、捜査に役立てています。
 主な仕事は次のとおりです。

○ 足跡追及活動（足跡の臭いから追いかける）

人の残した臭いから、犯人や犯人の残していった遺留品、行方不
 明の人を見つけるものです。

○ 臭気選別活動（臭いで物の区別をする）

犯罪現場に残った犯人の物を保管しておき、
 容疑者が判ったときなどに、その物と容疑者の
 臭いを嗅ぎわけ、犯人を調べる方法です。

○ 捜索活動

一定の地域内から人や物を発見させるもので、
 迷子、行方不明者、遺留品などをさがします。



Q 3 7 警察犬は、何頭いるのですか。

A 直轄警察犬（全国の警察が直接飼育している警察犬）が、

千葉県 7頭（平成30年12月現在）

全国 159頭（平成30年12月現在）

嘱託警察犬（民間の訓練所などから年1回行う審査で優秀で、警察犬
 としてお願いした犬）が、

千葉県 41頭（平成30年12月現在）

全国 約1, 185頭（平成30年12月現在）

です。

Q 3 8 警察犬は、シェパードしか出来ないのですか。

A 家庭で飼われている犬は約60種といわれていますが、このうち警察犬に適しているのは、数種に限られています。

社団法人日本警察犬協会が警察用犬として登録している犬種は、

シェパード

ドーベルマン

コリー

エアデールテリア

ラブラドルレトリバー

ボクサー

ゴールデンレトリバー

の7犬種です。

特に、シェパードは

○ 鋭い感覚を持ち、運動ができる。

○ 頭が良く、我慢強い。

○ 落ち着いていて、言うことを聞き、やる気がある。

などの理由から警察犬として最も適しているといわれています。

Q 3 9 警察犬の訓練は、どのようなことをするのですか。

A 生後8か月から訓練を開始します。

○ 基本訓練（服従訓練）では、

停座（座る）

伏臥（伏せる）

立止（立って待つ）

脚側行進（訓練士の左側について動き、止まる）

物品持来（物をくわえて持ってくる）

などの基本的な動作を訓練します。



○ 応用訓練

基本訓練をマスターした後、応用訓練を開始します。

Q40 警察犬の制度は、いつごろできたのですか。

A ○ 外国での警察犬制度の始まり

1896年（明治29年）

ドイツのヒルデスハイム市警察で、警察官と一緒にパトロールする犬として警察犬が採用されました。

1899年（明治32年）

ベルギーのジェント市で、警察官の補助として警察犬が採用されました。

1908年（明治41年）

イギリスのケント州で、警察官の補助としてエアデールテリア犬種が警察犬として採用されました。

その後、警察活動で良い結果を多く得られたため、アメリカ、イタリア、ロシアなどでも警察犬を採用し、現在では数多くの国が捜査などに活用しています。

○ 日本の警察犬制度の始まり

1912年（大正元年）

警視庁がコリー犬種、ラブラドルレトリバー犬種の2頭を警察犬として採用しました（当時は犯罪捜査ではなく、防犯広報活動が目的でした。）。

1940年（昭和15年）

警視庁で、警察犬舎を設け、警察犬6頭を飼育しました（戦争のため一時廃止）。

1952年（昭和27年）

戦後再び警察犬が採用が検討され、警視庁で民間の訓練士に12頭の犬を警察犬として囑託しました（囑託警察犬制度の始まり）。

1956年（昭和31年）

警視庁で、本格的な直轄警察犬制度が発足しました（直轄警察犬制度の始まり）。